

1	3月定例会 議案審議 編集委員会より
2~6	各会派代表質疑

市議会だより

平成22年5月号

〒583-8585 羽曳野市誉田4-1-1
 羽曳野市議会事務局 Tel.072-958-1111
<http://www.city.habikino.osaka.jp/info/051/index.html>

平成22年第1回定例会報告 市長の施政方針に対する 各会派代表による質疑



庭鳥塚古墳 鏡出土状況

3月定例会

平成22年第1回定例会は、2月24日から3月26日まで31日間の会期で開催しました。

今定例会では、施政方針に対する5会派の代表質疑、条例の一部改正、平成21年度一般会計・各特別会計の補正

予算及び平成22年度一般会計・各特別会計など35件の議案と意見書2件を審議しました。なお、そのうち14議案を各常任委員会に付託し審査しました。今回は12人の議員が一般質問を行いました。代表質疑を中心に報告します。

議案審議

○条例制定及び条例の一部改正を可決
 生活文化情報センター条例等の一部を改正する条例や国民健康保険条例の一部を改正する条例など12件の条例を可決しました。

○平成21年度各補正予算を可決

一般会計では、補正8号が上程され、総額413億4055万7千円としました。また、と畜場、財産区、公共下水道、老人保健、介護保険、健康ふれあいの郷事業、土地取得の特別会計と水道事業会計の各補正予算を可決しました。

○平成22年度各当初予算を可決

一般会計では、総額395億4364万9千円、前年度比13.8%の増となりました。また、各特別会計と水道事業会計もあわせると、総額747億5475万7千円、前年度比7.0%の増となりました。

○報告・議案・意見書等の詳細は次号に掲載します。

編集委員会より

今月号は主に3月定例会において市長より発表された本年度施政方針に対する各会派の代表質疑の内容について要点を絞り掲載し、一般質問および、各常任委員会報告等は、次回6月号にて掲載いたします。

毎年5万人を超える来場者で賑わう『はびきの市民フェスティバル(白鳥伝説はびきの祭)』が5月5日(祝)、峰塚公園周辺特設会場にて開催されます。今年も盛りだくさんな内容で準備が進められています。ぜひ楽しいひと時をお過ごしください。

《市議会だより編集委員》

- | | |
|-------|-------|
| 田仲 基一 | 花川 雅昭 |
| 秋田 栄一 | 松村 尚子 |
| 嶋田 丘 | 笹井喜世子 |
| 岩田賢二郎 | |



●**質疑** 教育施設の耐震化について、臨時交付金で耐震診断・工事が進むが、進捗状況は。また、優先順位はあるか。

●**市長** 今年度小・中学校28棟の耐震補強と古市小の校舎増築工事が完了すると耐震化率は67.3%になる。9月頃の2次診断の結果で計画を策定し方向を決めたい。

●**要望** 優先順位を見きわめて取り組んでもらいたい。特に蒼田中については今年1学期中に方向性を打ち出すということであるが、早急にお願したい。

●**質疑** 教育施設の防犯カメラ設置は、安全管理員の代わりなのか。

●**市長** 府は21年度より交付金化しており22年で廃止の予定。交付金の趣旨を踏まえ、全小学校に防犯カメラを設置する。安全管理員に代わるとは思わないが、少しでも抑止効果になれば。

●**要望** 何が安全かを考え、地域の意見と協力による施策展開を。

●**質疑** リサイクルプラザと市民公益活動センターの設置場所と担当課は。住民の声を入れ、活かして行く考えか。

●**市長** 併設で植生小学校東側用地を予定。市民公益活動センターは、本庁1階ロビーに事務局がある準備委員や市民の声を聞き準備を進めている。担当は市民人権部。リサイクルプラザは生活環境部であるが、最終的には一つの委員会を立ち上げる予定。

●**要望** リサイクルごみ削減を行い、未来に向け良い環境をつくり、人が集

まる施設にしてもらいたい。

●**質疑** 構想に基づき古市駅周辺のバリアフリー化を促進するが、駅周辺の歩道は商品や看板があり住民、特に車いすの方に迷惑。どう対応するのか。

●**市長** 近鉄は駅舎にエレベーターや多機能トイレ等を設置予定。本市は駅舎と旧170号を結ぶ歩行者専用通路を整備。ソフト面も必要で、高齢者や障害者へのサポート意識の醸成、ルールやマナーの向上に向け、広報やホームページで啓発するとともに、施設管理者にも働きかけていく。

●**要望** 古市駅前の現状を理解し、市民の声を入れ近鉄と協議を行い、バリアフリー化の促進に努めてもらいたい。

●**質疑** 府営古市住宅建てかえに伴い、今年度アクセス道路の整備を行うが、市長はいつ完成させたいのか。道路の用地買収で残地が出来た時の対応は。

●**市長** アクセス道路は古市住宅から南阪奈道路側道区間で、幅員12m、両側歩道を設置。現在、測量設計を実施しており、極力残地の発生がない様にしている。建てかえについては、早期事業化を図れるようにしたい。

●**要望** 府営住宅、市営住宅は早く建てかえてもらいたいと住民は願っている。市営住宅は雨が降れば常に問題が起きることから、安心・安全のためにも府営住宅ともにお願する。

●**質疑** 八尾富田林線の整備が進むなか、河原城駒ヶ谷線から南阪奈道路の区間は未着手であるが、河原城中学校から羽曳が丘への既設道路との接続はどうなるのか。工事期間中、利用できるのか。

●**市長** 現在、府で未着手区間の用地

買収を進めており、既設道路との接続は市道の区域の変更、認定、廃止を伴うことから、管理者との交差点協議が必要であるが、まだ済んでいない。今後、機能が損なわれないように、また、地元の要望にも合うように協議を進めていきたい。

●**要望** 隣接する町会の意向も踏まえ早期着工をお願いする。

●**質疑** 峰塚公園は夜間大変暗く、子供たちが集まり園内を単車で走っていた。苦情や犯罪の場になるおそれもあるが、管理棟の整備はどうするか。

●**市長** 塚ヶ塚古墳の景色に合う高床式の建物で事務室、学習室等を予定。あわせて防犯上必要な放送設備や防犯カメラ、災害時の電力源になるソーラー設備、かまどとして利用できるベンチ、トイレ用雨水貯水設備を予定。

●**要望** 犯罪がないよう防犯対策にも一層努めてもらいたい。峰塚公園や道の駅で自然とふれあう場所や音楽など色々なイベントの開催の場としての利用も考えてもらいたい。

●**質疑** 施政方針では本市指定業者の事は述べてないが、不況で融資が受けにくいと聞く。公共事業は40%前払い金、60%が終了後で苦しい。国は建設業に資金調達の円滑化を支援するため、地域建設業経営強化融資制度を創設。本市導入の考えは。

●**市長** 内容を検討してぜひ前向きに考えていきたい。

●**要望** 前向きに取り組むと聞き、制度の早期導入を強く要望する。

●**質疑** 国民健康保険を利用していない方に報奨金制度の考えは。保険証偽造防止ホログラムを取り入れては。

●**市長** 報奨金制度はないが記念品の贈呈しており、今後、健康まつりでの表彰も検討する。保険証のカード化の

時にコピーすると隠し文字が出る仕組みを導入している。ホログラムについては検討する。

●**質疑** 障害者基本計画見直しとは。

●**市長** 政権交代により25年8月に障害者自立支援法の廃止が予定されているなど、障害者施策により環境が大きく変わりつつある。23年度策定の第2期障害者基本計画策定の準備として、22年度にアンケート調査などを予定。第1期計画の基本理念をふまえ、地域で暮らす社会実現をめざし、国の障害者施設と整合をとり計画を策定する。

●**要望** 本主に障害者の方々自立できる計画を策定してもらいたい。

●**質疑** 道の駅にダルビッシュ有記念館の考えは。

●**市長** 道の駅で記念館をという形で既に申し入れを受けており、現在検討している。後援会の事務局である当市商工会に相談をし、できる限り本人の意向を尊重して、生まれ育った本市の中で施設ができるよう努力したい。

●**要望** ダルビッシュ有記念館は大事だと思ふ。是非、人が集まる道の駅に建設してもらいたい。

●**質疑** 健康、賑わい、教育、笑顔、人材のまちをつくるなら、地域の祭りも考えられる。祭りは子供に元気や笑顔をもたらす。また、祭りを通じて道徳も教わるなど、すばらしい人材を生むのでは。さらに、人が集まり賑わいも出ると思う。伝統あるだんじりや大津神社などの祭りに対する考えは。

●**市長** 私個人として伝統を引き継ぐことは大変良いと思っている。市としては伝統を引き継ぐ事に対する側面からの支援はしようと思っている。伝統ある祭りであるだんじりや大津神社の地域祭りで町が賑わうよう前向きに積極的に取り組んでいきたい。

笹井喜世子（日本共産党）



施政方針の
基本について

●質疑 世界的な経済危機の中、貧困と格差はますます

す拡大している。羽曳野市でも家計収入が落ち込み、市民の暮らしは大変深刻で危機的状況になっているが、施政方針ではそのことへの視点が見当たらず、認識もつかげない。①市民の生活実態への認識は。②市長の掲げる安心や健康、笑顔は「住民の安全、健康、福祉の増進に寄与する」という自治体本来の役割を果たしてこそ生まれると考えるがお考えは。

●市長 ①実質的な景気の動向や経済状況が伴わず、厳しい雇用情勢が続くと認識し、各家庭にかなり影響が出てきていると理解している。市民生活は直接自分で確認するのが必要だと思っている。②住民の福祉の増進は市町村の重要な役割と認識し、安心・安全に暮らせる施策を実施している。

●質疑 自公政権により毎年社会保障費が削られ、医療や介護、福祉制度が大きく傷つけられた。しかし、鳩山首相は後期高齢者医療制度や障害者自立支援法の廃止を先送りする一方、自公政権と同じく、軍事費と大企業・大資産家への優遇税制にはメスが入れられていない。大阪府の橋下知事も教育、福祉、文化予算を大幅に削減し、府営住宅の家賃の値上げ、私学助成打ち切り、医療費助成や街かどデイハウスの

補助金を縮小し、府営古市住宅の建てかえも先送りしている。しかし一方、ムダな大型公共事業は進めている。政治の担い手が変わっても、国や府は住民の願いに背く政治をすすめている。市民の生活が深刻な中、国や府の悪政を市政へ持ち込まず、きつぱりと対決すべきと考えるがどうか。

●市長 国においては、施策の見直しがすすめられ、府も大阪を輝かせ、未来をつくと取り組んでいる。国や府の動きを見きわめながら、市政運営を行っていく。

●市長 国において、

●質疑 「黒字財政を維持しているが、赤字財政から脱却したとは言えず、このままでは赤字財政への転落も危惧される」と述べられているが、連続の黒字決算の上、健全化判断基準も4指標すべて範囲内に収まっている。①財政は厳しいが、今すぐ赤字財政へ転落する状況ではないと考えるがどうか。②この間黒字に転じたのは財政健全化のもと人件費を削り、住民負担増によるものである。しかし、徹底してムダを削ることなどで財源を作り出す努力がされていない。このことにまず取り組むべきだが考えは。

●市長 平成18年度決算から黒字決算を維持しており、健全化の4基準も早期健全化基準に至っていないが、財政を取り巻く状況は楽観視できない。

●市長 ①平成18年度決算から黒字決算を維持しており、健全化の4基準も早期健全化基準に至っていないが、財政を取り巻く状況は楽観視できない。

②効率的な無理・ムダ・むらを省くことが第一番である。事業費の削減は個々に削減を検討する。応分の負担については事業内容や法令に照らし、公平性をしんしゃくして求めていくことを検討していく。③個々の職員的能力を發揮できる職場環境を整え、少数精鋭の行財政運営を進めていく。

●市長 市民ニーズを種々の角度から意見を聴取し分析・検討し、政策決定に反映している。

●質疑 党議員団は毎年市民の願いをまとめた予算要望書を提出しているが、来年度予算や施策をみても切実な市民の願いが十分反映したものになっていないがどうか。

●市長 市民ニーズを種々の角度から意見を聴取し分析・検討し、政策決定に反映している。

定されたことは法令遵守し、正しく運営していく。損害賠償金はすべて財産区特別会計に納入されている。水路の明け渡しはされたが、地元の総意、要望で問題もないので使用許可した。

●意見・要望 施政方針の基本は、今の市民の厳しい生活に心を寄せることとであり、地方自治の本旨にのっとり、市民の願う施策をすすめる立場にたつてすすめることを強く要望する。

●質疑 財政では黒字をつくり出すことを優先する財政再建では、施政方針に掲げる「にぎわい・笑顔・誇れるはびきの」はつくり出せない。財政が厳しいというのなら、不要やムダをきつぱり削ること、応分の負担を求め財源を作り出すことに踏み出すべきである。

●市長 まちづくりは駒ヶ谷地域の活性化と住み続けられるまちづくりを地域の方々が望んでいる中で、保育園の充実や若い人が住み続けたいと願うまちづくりこそが笑顔や活気を生み出す。このことは羽曳野全体のまちづくりに共通する。しかし今は市長の思いと決断が先行していることは否めない。今後市民の要望は、直接その声を聞き、生かした施策展開をしていただくよう強く要望する。最後に市民が勝訴した裁判で市民が問うたように、一部の人の利益を守る市政をきつぱり断ち切り、それを許さない立場にたち、公正で住民本位の市政運営を進めることを強く要望する。損害賠償金は、財産区財産管理者として、住民の意向を十分反映させるものにし、市民のために使われるよう強く要望する。

●市長 ①さまざまな事業について、

乙宗孝衛（新生はびきの）



1. 「安全・安心、快適で住みやすいまち」
●質疑 消防団のない地域における防災力の向上の考え方は。

●市長 校区ごとの防災訓練を積極的に取り入れている。

●質疑 古市駅前（東地区）暫定整備構想について。

●市長 都市計画道路の整備に合わせて、駅前広場としての機能を持つが、昨今の経済状況では困難な状況。一方で、地域の活性化は急務。市有地（駐車場跡地）の有効活用を図る。

●質疑 近鉄と市有地の間の民有地の取得について。

●市長 必要です。また、市有地からもう少し東までもほしいが、手を出せない非常に厳しい状況。

●要望 民有地は計画の要、ぜひ取得を希望する。

●質疑 古市周辺の公共施設の統廃合について

●市長 古市図書館、子育て支援センター、青少年センターなど、今後の施設のあり方を十分検証し、多様な機能を持った複合館の整備も視野に、利用しやすい施設にする。

●質疑 古市の街中を通っている国道166号線に対する考え方は。

●市長 拡幅については手を出せないが、拡幅したい想いはある。

●質疑 国道旧170号線の白鳥交差点から白鳥北交差点間の歩道について、もともと古市駅西側は駅前再開

発をするときに一緒に整備するということで、放置されてきた。暫定整備で駐車場ができたので、早く整備してほしいが、考えは。

●市長 この道路の所轄は府で、歩道整備も含めてバリアフリー化を促進。現地調査の上、可能と判断された箇所について、段差解消工事など積極的に取り組んでいくと府より回答。さらに積極的に府に働きかけをする。

●要望 ごり押しをしても、急いで工事にかかってほしい。

●質疑 古市の開発には近鉄との話ができる人がほしい。最適は北川市長しかいない。市長に頭を下げてもらいたい。12万の羽曳野市民にプラスになる。

●市長 積極的に市長として出番を作る。

●質疑 府営古市住宅建てかえに伴う周辺整備で、雨水排水と古市までのアクセス道路について

●市長 浸水対策は府と協議している。アクセスとして都市計画道路があるが手法的にも、整備上も困難なところが、数箇所ある。意識をして整備したい。

●質疑 道の駅周辺の交通渋滞対策について

●市長 渋滞対策として、南阪奈側道の4車線化を要望している。庁内関係各部と府との間で連絡会議を設置し、協議・要望を重ね、警察とも協議中。

●要望 JAさんの東隣の駐車場を立体化させることによって渋滞緩和を図るしかない。

●質疑 公共下水道の今後の汚水整備について

●市長 21年度末で汚水整備率は約75%を超える。22年度は17ha予定。整備率1%を確保する。

●要望 公共下水道をライフラインの中に入れる（他人地を通れる可能性）の方策を研究してほしい。

2. 「健康で生き生き暮らせるやさしいまち」（小児救急医療体制と周産期医療体制の進捗状況について）
●要望 他の代表質疑で答えがあったので答弁は必要ないが、力を入れてほしい。

3. 「次代を担う子どもを育むまち」
●質疑 植生小学校、羽曳野中学校の一貫教育についての考え方は。

●市長 小・中の教職員が交流する中で、大きな成果。手始めに植生校区に取組み、羽曳野中学校に幼稚園を建設し、小学校も中学校内に整備できれば。地元で協力を要請する。その後、残った空間を整備して、新しく利用したい。

●質疑 市立幼稚園の今後のあり方について

●市長 預かり保育を駒ヶ谷幼稚園で実施して検証する。早急に手立が必要だが、必要な施設があるが、計画的に機運を醸成し、早期に実施したい。

●質疑 幼保一元化について

●市長 21年度は保育園の保育士、幼稚園の教諭がそれぞれ出向いて研修。22年度は園児の交流をしたい。就学前の半年か一年、幼・保の園児が共通したもの学べるようにしたい。

4. 「魅力ある地域社会を拓く活力あるまち」
●質疑 羽曳野市健康ふれあいの郷について

①新しく開発される開発業者のコンペが締め切られ、事業主体が民間の業者に移ったので、十分な話し合いの場を

作ってほしいが、考えは。②住宅開発によって増設されるグラウンド・ゴルフ場の採算について③子供たちの遊び場がほしいが。

●市長 ①大和ハウス、住友林業、ミサワホームの企業連合体が選ばれた。当初計画より戸数は減る。良好な住宅が建設されればよい。②③8ホール増設により、採算は非常に厳しくなるが、市民の憩いの場として高齢者と子供たちと交流の場として、夏に水遊びのできる空間づくりをする。

●質疑 駒ヶ谷駅前整備に伴う国道166号線、河原城駒ヶ谷線の整備について

●市長 古市から徒歩又は電車でも来場場を利用してもらおう。河原城駒ヶ谷線と近鉄との立体化や石川を越えるのはほとんど不可能に近い。

●質疑 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に向けての竹内街道の役割について

●市長 積極的に今後は動く必要があるが、登録ありきで動くのではなく、その過程を大事にしたい。竹内街道を見直すそんな機運を醸成したい。

5. 「信頼に基づく市民とともに生きるまち」
●質疑 職員の採用時とその後のモラルの向上について

●市長 公務員としてしっかりと考えたような研修をかさねる。

●質疑 平成22年度施政方針の中で自信作は何か。また、その想いは。

●市長 子供たちに対する施策を最優先。特に植生校区で幼小中一貫教育、一貫校を実現できればと考えている。

秋田栄一（公明党）



●質疑 本年も厳しい経済情勢が予想される。その限られた財源の中で、多様化する市民要望

にどうこたえていくか、我々の使命の大きさを痛感する。そこで、日ごろ接している市民の要望や質問を中心に施政方針で示された5つのまちづくりに沿って、9点に絞って質問する。

●古市駅周辺まちづくり構想について。古市駅舎のエレベーターの設置とバリアフリー事業について、全員協議会で説明を受け、議論されてきたが、市長の構想は。

●市長 古市駅は当市の玄関口でもあり、顔でもある。早急にそれにふさわしい整備をする必要がある。市有地を活用し、国道の拡幅も兼ねて、にぎわいと交流づくりの場をつくりたい。また、古市周辺の公共施設を利用しやすいう形で統合していきたい。

●質疑 府営古市住宅の建てかえについて

●市長 早期の事業化及び下開保育園の建てかえの実施及び周辺地区を含む浸水対策について、府に対して強く要望している。市としては、工事用進入路としても使われるアクセス道路の市道整備に全力を尽くす。

●質疑 峰塚公園の整備について

●市長 峰塚公園は防災の拠点ともなり、市民の憩いの場でもあり、また、子供たちが歴史を学ぶ学習の場でもある。そのような夢のあふれた公園を整

備していきたい。

●質疑 救急医療体制について

●市長 救急医療体制については、南河内エリアにおいて平成21年4月より病院の輪番制により初期救急、2次救急体制の運用が行われている。これは2次救急も担う特定の病院が重症患者の適切な医療確保ができるよう初期救急医療体制の整備を行い、軽症の患者が集中しないための患者受け入れシステムが構築されたものである。また、本市における休日急病診療事業や南河内北部の広域小児急病診療事業については、昨年から新型インフルエンザの増加に伴って安定した受診体制の確保をするため、3師会や大病院等の協力を得て、2診体制の実施をするなど、体制の強化を図ってきた。さらに将来これらの事業のあり方についての検討や医療体制の確保に向けた広域化の検討もさらに進めていく。

●要望 本市で行われている土曜、休日、夜間診療の小児急病診療事業が開設され大変好評である。しかしながら、本来は24時間365日体制の小児救急医療体制を目指すべきであり、より大きな広域で検討すべきである。

●質疑 介護保険事業の基盤整備の促進について

●市長 介護サービスの基盤整備等については、平成21年3月に策定した第4期高齢者いきいき計画のもとに進めている。平成22年度から23年度にかけては、定員58名の老人保健施設を1カ所、定員29名の小規模特養を2カ所、定員18名の認知症対応型グループホーム3カ所、登録定員25名の小規模多機能型の施設2カ所を整備する予定であ

る。今後、超高齢社会を見据えて、高齢者が尊厳を持って自立をして生活ができるように、円滑で適正な介護保険事業の運営を図るとともに、住みよい生活空間の整備、適切な介護基盤の整備に努めたい。

●要望 公明党は昨年11月に介護の総点検を実施し、要介護者や介護家族、介護事業者、介護従事者、行政など全国10万人のさまざまな現場関係者から意見を聴取しその集計、分析結果に基づいて新介護公明ビジョンを作成した。特に注目されるのが、市長の答弁にもあつた地域密着型の在宅介護を支える小規模多機能型居宅介護事業で、この事業の普及推進が望まれている。この制度は、昼間は事業所に通ってデイサービスを受け、緊急時や夜間に希望すれば訪問介護を受け、家族が介護できない時には、事業所に宿泊して介護を受けるという3つのサービスをうまく組み合わせ、自宅にいながら24時間365日体制で支援を受けるものである。今までの制度との根本的な違いは、ケアプランで定められた利用枠にとらわれないこと、利用者の状況に応じて希望と対応できる利用方法にある。住みなれた場所での安心して介護と経済的にも非常に安く利用できる制度で、今後この事業の推進を要望する。

●質疑 保育行政について

●市長 公立保育園のあり方、特色のある保育園の方向など、今後の保育園運営等のあり方として具体的に方向性を策定するために、平成22年度以降に庁内での調査研究を踏まえて、学識経験者、保育専門職、保育関係機関、市

民の代表などで構成した第三者の機関を設けて検討を進めていきたい。また、幼稚園についても、一定の考え方をもち整理をする必要がある。平成22年度から実施する駒ヶ谷幼稚園での預かり保育も視野に入れながら、保育園として幼稚園の持つ役割、機能を改めて見直し、よりよいサービスが提供できるように推進する。

●質疑 放課後や週末等の子供たちの居場所づくりについて

●市長 国や府など、いろいろな制度や事業があるため、子供たちの保護者、地域の方々にはわかりにくいものになっているのではないかと感じている。今後、国や府の動向を見ながら、子供たちにとって望ましい事業へと検討する。

●質疑 駒ヶ谷駅周辺まちづくり構想について

●市長 地場産業であるブドウや豊かな自然、歴史資源などを生かした形での整備を考えており、平成22年度は駅周辺（約2千坪）整備の実施設計を、また、観光農園を実施したい。

●質疑 信頼に基づく市民とともにつくるまちづくりの推進から、市民公益活動センターについて

●市長 行政に限られた予算の中で市民や市民公益活動団体と協働して、まちづくりを進めるための重要な施策であると考えており、その拠点として（仮称）羽曳野市民公益活動センターを設置する。

●要望 地域住民の生きた声を市政に生かして、地域住民が本当に住んでよかったと思える羽曳野市を目指して、しっかりと地域住民と連携のとれた市政運営を心から要望する。

●市長 公立保育園のあり方、特色のある保育園の方向など、今後の保育園運営等のあり方として具体的に方向性を策定するために、平成22年度以降に庁内での調査研究を踏まえて、学識経験者、保育専門職、保育関係機関、市民の代表などで構成した第三者の機関を設けて検討を進めていきたい。また、幼稚園についても、一定の考え方をもち整理をする必要がある。平成22年度から実施する駒ヶ谷幼稚園での預かり保育も視野に入れながら、保育園として幼稚園の持つ役割、機能を改めて見直し、よりよいサービスが提供できるように推進する。



1. 市長の政治姿勢について
●質疑①「子ども手当について」約23億4千万円と大きな予算が組まれているが、7割前後の人が反対だとの調査結果もあり、それより子供を安心して育てられるような施設整備を図るべきだとも言われているがどうか。

●市長 タイムリーな施策ではあるが、景気対策とかいった性格のものとし、実施後、一定回復すれば終了し、持続可能な子供に対する施策は、別につくべきだと考える。

●質疑 ②「新たな財政健全化計画における生活保護費について」生活保護費を含む民生費は、17年度一般会計予算の37.5%で、市税123億円であったものが22年度では、市税約125億2千万円に対し、民生費は167億5千万円と激増し、市税をはるかに上回っている。生活保護を否定するものではないが、中には働かず、昼間から酒を飲み、アルコール中毒で入院を繰り返す方もいる。医療費もすべて税金であることから、使途の明細を提出願ひ、生活実態を把握することで、自立を促す制度は考えられないか。

●市長 先般報道された大阪市などの先進事例の研究・検討を行い、本市に見合った取り組みを実施していきたい。現在当市では、ケースワーカーが生活保護世帯の生活実態の把握に努め、生活指導等もしている。就労支援員増員など、体制も充実させ、積極的に就労支援を行っていく。

●要望 働かずに生活保護費を受給される一部の人のために、他の人の就労意欲をそぎかねない。正直者がばかを見ることのない公平、公正な制度となるよう積極的に取り組まれないか。

2. 広域行政、広域連携について
●質疑 ①「清掃組合について」ごみの焼却を松原市は大阪市に委託されているが、柏羽藤環境事業組合を松原市と4市で実施することで、市民負担を軽減できるのではないかと。

●市長 実態調査では、炉のメンテナンスに支障が生じ、4市分のごみ焼却には、能力的に非常に厳しい面がある。ただ、南河内はいずれ一つで広域的に運営すべきではないかと考えており、実現化に向けて積極的に取り組みたい。

●質疑 ②「行政委員会について」農業委員会は、現在農地も相当数減っていることから、農協が南河内地域で一本化されたごとく、同様に南河内で一本化できないか。

●市長 各市町村間では、相当ばらつきがあり、その役割が非常に多いところもあり、うまくかみ合うかどうか疑問もあるが、その点調査したい。

3. 安心・安全、快適で住みやすいまちづくりについて
●質疑 ①「校区連絡協議会の設立について」各校区に福祉委員会や青少年健全育成会等種々団体があるが、催事の際の出席者が区長や婦人会の役員の方等、同じ方々であることから、校区内一つの会に整理できないか。

●市長 7地区の地区長さんによる連合会長会で、相談させていただきたい。

●質疑 ②「防災対策について」初動体制を担っていた地域の方々には災害時、優先的に救助すべき高齢者や障害のある方等の情報を、人権や個人情報等の関係から提供できないかと懸念されているがどうか。

●市長 大阪府災害時要援護者支援プラン指針を受け、現在個人情報取り扱いにつき関係機関との協議を進めている。地域の実情に応じた支援体制、情報伝達、安否確認、避難誘導等に關する制度の構築を現在考えている。

●質疑 ③「太陽光パネル設置について」国の補助に加え、市も負担することで、市民の方にCO₂削減意識を持つてもらえるのではないかと。

●市長 民間住宅への設置については、検討、研究をしてまいりたい。

4. 健康で生き生きと暮らせるまちづくりについて
●質疑 医療圏の違いもあるものの、柏羽藤と松原市の4市で、民間病院では経営上厳しい小児科と産婦人科を中心とした一部事務組合による病院の設置を提言したい。

●市長 病院経営は、非常に厳しい面もあり慎重に考えたいが、地域医療の充実には、積極的に広域で取り組み、さらに安心して医療が受けられるような体制をつくってまいりたい。

●要望 民間病院では、難しい小児科、産婦人科に特化した病院を4市、5市の一部事務組合で設置することで、市民が安心して暮らせる町につながるものだと確信しており、強く要望しておきたい。

5. 次代を担う子どもを育むまちについて
●質疑 「幼保一元化の考え方について」厚生労働省と文部科学省の縦割り行政のため、なかなか前へ進まない。認定こども園が出てきているものの、余り進んでおらず、市でも教育委員会と市長部局との対立もあるように思われる。今後は、国、府、市とも自らの領域を超えて取り組むべきである。また、現在公私立保育園が14園、公立幼稚園14園ある中で、園児数に10倍もの

差がある園や半径300メートル以内に3園あるなど、地域的に偏っているところもあり、各園舎はかなり老朽化もしている。子育てや教育の質を低下させないため、幼保一元化も視野に入れないながら、80人から100人規模が、団体教育、保育を行う上で適正ではないか。

●市長 認定こども園も視野に入れながら、利用者に対するさらなるサービス向上のため、老朽園舎の建てかえの時期には、幼保一元化も必要と考えている。

6. 魅力ある地域社会を拓く活力あるまちづくりについて
●質疑 「遊休農地の今後の活用の考えについて」南阪奈道路全線側道がある地域で、遊休農地の活用策としても、優良な企業を誘致し、固定資産税を確保する施策に取り組んではどうか。

●市長 積極的に企業の誘致も含めて地域の活性化を図ってまいりたい。

7. 信頼に基づく市民とともにつくるまちづくりについて
●質疑 市の根幹である市税も含め、国保料や保育料など、公共料金が縦割り行政であるために、それぞれの担当課が滞納者に対して取り組まれている。督促や徴収の事務を一本化し、Gメンというか、専属のチームをつくるのはどうか。

●市長 滞納事務の効率性なども考え、市税や保険料など、総合的に取り扱える対策室、チームの設置を今年度中の立ち上げに向け努力したい。

●要望 厳しい時代の中、職員の方にも意識改革を願ひ、例えば庁舎力ウンター内の清掃を職員自らが、業者委託費を半減させることで、市民の理解も得られ、納税意識の向上につながる。その点なども踏まえ、市政運営に取り組まれるよう要望する。